

Platys [プラティス]

KDU COMMUNICATION MAGAZINE

広報誌タイトル
「Platys」の由来

医聖ヒポクラテスは、紀元前にギリシャのコス島のプラタナス(スズカケノキ)の木陰で弟子たちに医学・医術、医の倫理を説いたといわれ、本学にはプラタナスの木とコス島から運んだ巨石があります。プラタナスの語源はギリシャ語の「platys(広い)」であり、大きな葉や広がる枝に由来します。学生たちの豊かな成長と、九州歯科大学の繁栄を願い、「Platys」と命名しました。



おくちのお話

「いつハミガキする?」

1日のうち、歯が一番弱る時間をご存知ですか?

それは「夜」です。とくに寝ている間が一番危険です。

なぜ危険かというと、寝ている間はしゃべったり、食べたりすることがないため口が動かず、ばい菌にとっては37℃の温かい、湿ったお布団の状態です。さらにツバの出も少なくなるため、日中のように押し流されることもありません。そのため、どうしても寝ている間は口の中のばい菌が増えてしまいます。では、防ぐためにはどうすればよいでしょうか。

それは寝る前にしっかりと歯をみがくことです。どんなに元気なばい菌でも、栄養がないと増えることができません。むしろ歯菌の栄養になる食べかすや、布団になるプラークをしっかり落とすことから寝ることが大切です。

1日3回のハミガキが理想ですが、家事やお仕事で難しい場合は、夜だけでもしっかりみがくようにしてみてください。



九州歯科大学歯学部口腔保健学科

講師 船原まどか

九州歯科大学基金について

2015年4月1日、本学は九州歯科大学基金を設立いたしました。

目的

本学の教育研究目標である「新たな時代に対応できる柔軟な判断力と問題の自己解決能力を有する創造的医療人を育成する」「歯科保健医療を通じて社会に貢献する医療人を育成する」「高度な専門性を有する歯科医療人を育成し、高度先進医療の拠点病院としての機能を強化する」「歯科医学を支える研究を推進するとともに、地域社会と連携した研究を展開する」「国際社会に貢献できる人材の育成と交換留学生の受け入れを促進し、アジア太平洋地域の歯科教育研究機関との連携を強化する」を達成するために、「国際的口腔保健活動のフロントランナー育成」事業を今後展開していくこととしており、その事業を支援することを目的として、九州歯科大学基金を創設いたしました。

取組み

- 本基金による「国際的口腔保健活動のフロントランナー育成」事業では、具体的に以下のような取組みを行ってまいります。
1. グローバルな視野をもった医療人育成支援
海外の大学との連携強化および国際交流活動の推進、学生国際交流活動推進プログラムの運用支援
 2. 学生・大学院生・留学生の奨学金の確保
 3. 大学主導のリカレント教育の強化
あらたな医療技術普及活動・歯科医療人再教育活動の推進支援

ご寄附のご案内

募金の単位	個人寄附	一口5千円 (できるだけ複数口願いますが、金額にかかわらずありがたくお受けいたします。)
	法人寄附	一口の金額は特に定めておりません。
振込方法	払込用紙に必要事項を記入のうえ、郵便局(ゆうちょ銀行)からお払込みください。 (手数料は本人負担となりますのでご理解願います。)	
振込先	九州歯科大学基金 [口座記号番号] 01730-7-128350 ※専用紙がお手元ない場合は、下記の事務局までご連絡ください。	

●税制上の優遇措置・・・本学は公立大学法人ですので、「九州歯科大学基金」への寄附につきましては、税制上の優遇措置を受けられます。

【個人情報の取扱いについて】 取得した寄附者に係る個人情報は、個人住民税の寄附金税額控除手続を円滑に行うため、寄附者様の名簿をお住まいの市町村へ提出させていただきますのでご了承願います。なお、寄附者の氏名は、九州歯科大学ホームページにおいて顕彰させていただきます。

基金に関する窓口 公立大学法人 九州歯科大学 九州歯科大学基金事務局(担当:総務課)
〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴2-6-1 TEL:093-582-1131(内線7211) FAX:093-582-6000

九州歯科大学広報誌「Platys [プラティス]」へのご意見・ご感想をお待ちしています。 >>> ✉ e-mail:kikaku@kyu-dent.ac.jp

本誌についてのご意見・ご感想をメールにてお寄せください。いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。

九州歯科大学広報誌 Platys [プラティス]

2020・創刊号

【編集・発行】公立大学法人九州歯科大学 〒803-8580 福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目6番1号
TEL:093-582-1131(代表) URL: https://www.kyu-dent.ac.jp/

December 2020 Vol.01



特集 1 【学長インタビュー】創刊号によせて
社会に貢献できる歯科医療人を
育て地域と共に歩む

特集 2 【卒業生リモートインタビュー】
学長賞を受賞した卒業生への
現役学生リモートインタビュー

特集1 FEATURE ARTICLE



創刊号によせて

社会に貢献できる 歯科医療人を育て 地域と共に歩む

interviewee

公立大学法人九州歯科大学
理事長・学長 西原 達次

1952年生まれ。東京都出身。九州歯科大学歯学部卒。東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了、歯学博士。国立予防衛生研究所(現在の国立感染症研究所)口腔科学部歯周病室長を経て、1999年九州歯科大学教授に就任。2006年同理事・歯学部長、2012年より現職。

広報誌「Platys」創刊にあたり、九州歯科大学の今までの歩み、現在の活動や目指す姿、広報誌創刊の目的などについて学長に伺いました。

公立大学法人として 自律の道を進む

九州歯科大学は、創立106年の歴史と伝統を持つ「口腔医学の総合大学」です。歯学部歯学科、口腔保健学科、大学院歯学研究科を有し、全国に歯学部を持つ29大学の中で唯一の公立大学として、歯科医学・医療の発展に貢献してきました。

近年の歩みを振り返ると、本学にはいくつか転機がありました。なかでも、2006(平成18)年に県立大学から公立大学法人になったことは大学に大きな変革をもたらし、県の直轄を離れて自律した大学運営をする新たなスタートを切ることになりました。

社会的な使命となる「基本理念」を作成し、その実現に向けて知識・技能・人間性を兼ね備え、利他の精神に裏打ちされた歯科医療人を育成する教育研究目標を立て、カリキュラムも改変していきました。

100年の歴史を越えて

2014(平成26)年に迎えた創立100周年は、本学の大きな節目となりました。このとき私が掲げたスローガン「Think globally, act locally(世界規模で考え、足元から行動せよ)」には、広い視野で物事を捉え、地域のなかで実践ができる歯科医療人であってほしいという願いを込めています。

100周年を機にグローバルな人材育成を推進し、2013(平成25)年から積極的に海外の協定校と連携。2016(平成28)年までにアジアや欧米の大学12校と学術協定を締結し、学生・教員の交流や共同研究などを行ってきました。

2015(平成27)年には、次なる世紀の歩みに向けて「九州歯科大学憲章」を作成しました。基本理念と教育研究目標をしっかりと関連付け、大学の軸となるあり方を「前文」として加え、本学の憲章としました。

前文では、患者さん中心の歯科医療を提供できる人材の育成を第一に掲げ、全人的な歯科医学教育活動を展開し、新たな大学づくりに向けて学生と教職員が一丸となって実現することを宣言。教育を受ける者も授ける者も、一体感をもって進んでいく姿勢を示しました。



九州歯科大学憲章

高齢化社会を支える 歯科医療を提供するために

患者さん中心の歯科医療を提供していくためには、時代背景や地域の状況、患者さんが求めていることを把握し、実践していく必要があります。時代とともに、歯科医療はどんどん変わってきており、特に高齢化に伴う変化は顕著です。歯科医院では基礎疾患のある高齢の患者さんが増え、従来の治療方法では対応が難しくなってきたのが現状です。

高齢化社会に必要な歯科医療を提供するために、本学は北九州市内の歯科医師会と連携協定を結び、2016(平成28)年に口腔保健・健康長寿推進センター(DEMCOP “デムコップ”)を学内に開設しました。現役の歯科医師や歯科衛生士を対象に、重篤な全身疾患や摂食嚥下障害をもつ患者さんの口腔機能向上を実現できる臨床医を養成するリカレント教育を行っています。

私たちが今やらなければいけないのは、こうした地域の状況に寄り添う歯科医療です。DEMCOPのカリキュラムは本学の教育にも取り入れており、即戦力として高齢の患者さんに対応できる若い歯科医師も育ち始めています。

【DEMCOPの概要】



医科歯科連携、学校連携で 幅広い視野と実践力を育てる

人材育成の取り組みとして、本学では医科歯科連携に力を入れています。北九州市内の急性期や回復期の病院、消防署の救急隊と連携した授業を行い、患者さんの状態に応じてどんな医療が行われているのか、病棟ではどんな口腔管理が行われているのかなど、さまざまなケースを見て学んでいます。

手術前から術後の回復期までを含む周術期の口腔ケアは、医科の多くの診療科から強く求められています。口腔ケアをすることで、病気がより早く回復して退院できることが分かっており、特に消化器外科の先生たちは重要性を肌で感じています。

医師が行う「生命の医療」に対し、歯科医師は「生活の医療」を担っています。食べること、話すこと、笑顔で過ごすこと。毎日の大事な生活を支え、患者さんと共に歩むことができる仕事が歯科医療なのです。

また、教育・研究環境の充実を図るため、他大学との連携も推進しています。2013(平成25)年に文部科学省の補助金事業に採択され、北九州地区の大学(九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学)と単位互換制度をつくり、医歯工学連携で互いの長所を生かした教育の機会を設けました。学生の視野と可能性を広げ、多職種の人とも協働作業ができる歯科医療人を育てていきたいと思っています。

このことにより、2025年を目途に、厚生

労働省が推進している「地域包括ケアシステム」において、歯科医師と歯科衛生士がオーラルヘルステームとして他職種連携を通じて活躍する時代に対応できる教育を展開しています。

広報誌が目指すもの

広報誌を創刊した目的は主に3つあります。1つ目が、本学の活動を世の中に伝えていくことです。地域医療への貢献を目指した取り組みなどを、より多くの方々に知っていただきたいと考え、広報誌のプロジェクトを立ち上げました。

2つ目が、同窓生とのつながりです。本学は長い歴史の中で数多くの卒業生を輩出してきました。北九州市や福岡県だけではなく、全国各地に同窓生がいます。広報誌を届けることで、歯科医療人として活躍している同窓生の方々とつながりを深め、共に歩んでいければと思っています。

そして3つ目は、大学が一体となること。広報誌の作成は、教員と職員で委員会を発足して行い、学生も誌面づくりに参加しています。広報誌を通して教職員が学生と共に協働し、大学がひとつになって活力を生み出していきたいと考えています。

本学と皆さまをつなぐコミュニケーションツールとして、広報誌「Platys」が多くの方々に愛され、育っていくことを心から願っています。



Topics

関連団体からのお知らせ

九州歯科大学には、学生の皆さんが充実したキャンパスライフを過ごせるよう支援を行っている団体が複数あります。これらの団体には、学生の基盤である生活や学業をはじめクラブ活動を含む自治会行事、さらには国家試験や就職等への支援をいただいています。

歯学科同窓会

Platys創刊おめでとうございます。この広報誌が学生・卒業生・保護者更には一般住民とのコミュニケーションのツールとして活用されることを期待します。

大学と同窓会は「包括的連携協定」を結んでおり、共に発展し歯科医療を通じて社会に貢献するという理念のもとに活動しています。

我々歯学科同窓会は、在学生も同じ九州歯科大学の同胞という考えで、学生会員として受け入れております。会員としての権利もほとんど正会員と同様の特典や学生会員だけの特典をも甘受できます。また学生自治会への援助や国家試験対策への支援なども行っています。

学生も卒業生も一丸となって、母校の発展と歯学の向上にまい進する同窓会をよろしくお願いたします。



会長 片山 幹夫

口腔保健学科同窓会(すいかずら会)

Platys創刊を心よりお慶び申し上げます。世界で類をみない超高齢社会を迎えている日本は、地域包括ケアの推進が急がれる中、キュアからケアへのシフトチェンジを余儀なくされています。予防を専門とする歯科衛生士の知識やスキルを発揮する時代が到来しつつあると言っても過言ではありません。

冬に忍ぶと書き「すいかずら」と読む本同窓会は、養成校・衛生学院・口腔保健学科へと変遷を遂げ、長い歴史と伝統を継承している卒業生との人脈が強みです。在学生との交流をはじめ、卒業生の近況報告や学術研修会の開催を通じて、どのような状況下においても、強くしなやかに開花する原石をサポートする会でありたいと考えております。



会長 有松ひとみ

後援会

Platys創刊、おめでとうございます。

後援会は学生の保護者を会員とし、会員からの会費を原資として、学生自治会への援助や歯科医師・歯科衛生士国試対策委員会への支援、大学院生への研究援助など様々な活動を行なっています。また、大学や学生との協議会を開催し、学生生活の安心安全のための提言も行っております。コロナ禍で深刻なマスク不足の際には、学生へマスクを配布し、さらに新規事業として国試受験生へのインフルエンザ予防接種支援を行います。

今後とも学生がよりよい環境で、より充実した学生生活を送れるよう大学、同窓会、永松奨学会とともに手を携え、活動していきます。学生に関わってくださる全ての方々に心から感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



会長 松尾 純子

一般財団法人 永松奨学会

一般財団法人永松奨学会は1970年に大学創立50周年を記念する同窓会の事業の一つとして、その生涯を本学発展のために捧げられた初代学長故永松勝海先生のご功績を永久に顕彰するために設けられたものです。

本奨学会の基盤である基本財産は、設立当初に頂いた永松先生のご遺族からの拠金が核となり、九州歯科大学同窓会・後援会をはじめとする学内諸団体や関係会社・商社、また個人の有志や卒業生などからの寄付金などによるものです。

本会の事業は、九州歯科大学学生および大学院生で人物、学業ともに優秀で、学資の支弁が困難な者、または就学中に家庭事情急変などのために学業を継続することが困難となった者に対する奨学の援助です。

本会の実績は、1970年～2019年に奨学金を貸与した学生760名、貸与金額2億1500万円になります。

これからも皆様のご支援をいただきながら、経済状況の厳しい学生に対して援助を続けてまいります。



理事長 福田 仁一

特集2 FEATURE ARTICLE

学長賞を受賞した卒業生への現役学生リモートインタビュー

卒業生・現役学生とで行うインタビューの目的

今回、広報誌を創刊するにあたり「九州歯科大学の学生さんの“明日”に役立つような場を作ろう」と考えたのが、このインタビュー企画です。学生の代表者が卒業した先輩に直接質問をし、個々の学生が先輩の回答を聴いて自律的に考えることは、これまで九州歯科大学の歴史の中で最も大事にされたことのひとつです。本学特有の温かな場の雰囲気皆さんに伝わり、学生さんそれぞれが、現実の悩みへの問題解決の一助となったり、未来の夢に思いを馳せたりすることのできる場になれば、と思います。



公立大学法人九州歯科大学 副学長 木尾 哲朗

九州歯科大学学長賞について

九州歯科大学におきましては、学生として模範とするに足る者を学長賞として表彰しております。

表彰は、右記に該当する学生等に対して行うものとしております。

- ① 学業成績が特に優秀な学生
- ② 課外活動において特に優秀な成績を修めた学生個人や学生を構成員とする団体
- ③ ボランティア活動等の社会活動の功績により、表彰に価すると認められる学生やサークル等グループ

令和元年度学長賞受賞者 (第15回・16回)

① 学業成績が特に優秀な学生

<歯学科>

氏名	学年	選考理由
石川 貴啓	4年	3年次、4年次のGPA*が1位
建部 姫羅々	2年	1年次、2年次のGPA*が1位
吉村 杏奈	令和元年度卒業	6年間のGPA*が1位

<口腔保健学科>

氏名	学年	選考理由
那須 光里	2年	1年次、2年次のGPA*が1位
都留 美里	令和元年度卒業	4年間のGPA*が1位

*GPA(Grade Point Average)とは、各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値のことを指します。

② 課外活動において特に優秀な成績を修めた学生

<団体>

団体名	種目	選考理由
バスケットボール部	総合	第51回全日本歯科学生総合体育大会 優勝
ラグビー部	総合	〃

団体名	種目	選考理由
剣道部	総合	第51回全日本歯科学生総合体育大会 優勝
	男子	〃

<個人>

学科	氏名	学年	種目等	選考理由
歯学科	織田 光帆	3年	卓球女子 ダブルス	第51回全日本歯科学生総合体育大会 優勝
歯学科	津守 清加	令和元年度卒業		
歯学科	出嶋 香菜	4年	陸上(女子200m、400m)	〃
歯学科	佐藤 怜	4年	水泳(女子50m平泳ぎ)	〃
口腔保健学科	富田川 萌	2年	水泳(女子100m平泳ぎ)	〃

③ ボランティア活動等の社会活動により表彰に価すると認められる学生等

団体名	推薦理由
むしばくらぶ	永年にわたり地道に行ってきた地域貢献活動に加え、LINKtoposへの積極的な参加により、唯一の公立大学歯学部存在とその役割をアピールした。また、本学の地域貢献授業の創設にあたり歯学部長にアドバイスをを行った。

歯学科・卒業生 × 現役学生リモートインタビュー

卒業生、山口先輩に聴く。



第62期生
九州歯科大学
歯学部歯学科卒業(2014年3月)
山口 高広 さん
群馬大学医学部附属病院 臨床研修を経て、同院に勤務。2020年4月、群馬大学大学院医学系研究科に入学し、社会人大学院生として医学を専攻。6月より同院 歯科口腔・顎顔面外科助教。



interviewer
歯学科 4年
山崎 弘瑛 さん



interviewee
歯学科 1年
大塚 洋藝 さん

Q 歯学部を目指した理由は何ですか?...(大塚)

細かいものを作ったり、手先を動かすことが好きだったので、歯医者さんになろうと思って歯学部に入りました。

Q 歯学部の中でも、九州歯科大学を選んだのはどうしてですか?...(大塚)

正直、自分の学力的に行けそうだったからなんですけども(笑)。卒業した今では、九州歯科大学に入って本当に良かったと思っています。関東にも卒業生が多くて、先輩方にお世話になっていますし、口腔外科では実力のある先生たちが多くて助かっています。

Q 6年間の学生生活で、印象深い思い出はありますか?...(山崎)

やっぱり部活ですね。6年間ずっとバレーボール部に在籍していて、マッチングの試験の前日まで行っていました。部活で

出会った人たちとは今でも仲が良くって、自分の財産だと思っています。

Q 部活動を頑張った良かったことを教えてください。...(大塚)

先輩やOBの先生と接するので、集団の中での立ち振る舞いや礼儀を学ぶことです。僕自身、九州歯科大学のちょっと厳しい上下関係の中でもまれたことが、今の医局で非常に役に立っています。

Q 学生時代はどんなふうに勉強していましたか? CBT、国家試験の勉強も教えてください。...(山崎)

基本的には、講義の内容を中心に勉強していました。CBTに関しては問題集、国家試験は過去問を解くことが一番だと思います。

Q おすすめの勉強法や、歯学の勉強以外に大学のうちに自分で学んでおくべきことはありますか?...(山崎)

教科書とか一冊何か決めて、それを1時間でも30分でもいいので続けていく。勉強しないと気持ち悪いという感覚をつけていったらいいかなと思います。それから、英語の勉強は絶対しておいたほうがいい。論文を書くのも読むのも英語だし、できておいて損はないです。



Q 1年生は先生から指示されたことをする受け身になりがちなんですが、何かアドバイスがあればいいですか?...(大塚)

1年生のときは、まずはそれでいいかな。そのうち、自分なりの勉強の仕方が身に付いてきて余裕がでてくるから、やりたいことや調べたいことに取り組んでいけばいいと思います。

Q 実習が上手くなる方法があれば教えてください。...(大塚)

学生のときは、どうしてもノルマをこなす感じになってしまうんだけど、それだと歯科医師になってから患者さんに治療を還元できないんです。実習中は時間がかかってもう下手でもいいから、きちんと作業に向き合うことが大事です。



Q 病院実習にあたって、心掛けるべきことはありますか?...(山崎)

臨床を見ていると、疑問やわからないことが絶対に毎日出てくるから、それを1個でも教科書を調べたりして解決する。調べてもわからないことは、遠慮しないで先生に聞いたほうがいいです。

Q 学生時代にやっておくべきことや、やらないほうがいいことがあれば教えてください。...(大塚)

部活でも勉強でも頑張ったことは卒業した後につながるから、何でもいいので一生懸命やるといいと思います。やらないほうがいいことは、実習のときや単位を取るときに、こなしてしまうこと。九州歯科大生は要領がいいところがあるので、楽に早く終わらせてしまおうと思うんだけど、そこは我慢してじっくりやってもらいたいです。

Q 卒業後の研修先は、何を基準に選びましたか?...(大塚)

自分が学びたいことを基準に選びました。歯科医師といっても、一般歯科、矯正、口腔外科など幅広いから、お給料や勤務

時間とかよりも、まずはやりたいことを第一に考えるのがいいと思います。

Q 口腔外科を選んだ理由は何ですか?...(山崎)

入学当時は口腔外科を知らなかったのですが、勉強していくうちに興味を持つようになりました。例えば口腔がんは全身を把握しないと治療ができないし、命に関わる病気でもあります。すごく知識が必要で幅広い仕事ができることに、やりがいを感じて選びました。

Q 女性の方の場合、妊娠や出産でキャリアに空白ができると思いますが、周囲の方はどうされていますか?...(大塚)

口腔外科医の僕の同期は女性が3人いたんですが、今2人が医局に残っています。産休中の先生も、病院で頑張っている先生もいます。大学や施設によって、産休復帰のプログラムや、時短のプログラムなどがあるので、制度を利用しながらキャリアを積んでいますね。正直男性よりは難しいところはあるかもしれないけれど、決して道がないわけではないと思います。

Q 今年から大学院に進まれたのはなぜですか?...(大塚)

歯科医師として臨床をしていくうちに、口腔外科の領域でいろんな疑問が出て、解き明かしていきたいと思うようになったんです。大学院では設備が使えるし、他の先生たちと交流したり手助けしてもらおう機会もあって、研究のチャンスが増えることから大学院に進みました。

Q 大学院ではどんな研究をしていますか? 助教との両立は難しそうですが、実際いかがですか?...(山崎)

1年目なので研究テーマを決めたところです。口腔粘膜上皮の再生について、群馬大学の皮膚科学の先生と一緒に研究を進める予定です。正直、両立はかなりきついな。平日は口腔外科の臨床をこなしながら、臨床が終わった夕方や土日に、大学院の研究を進めています。社会人は仕事をしながらなので、学業だけに専念する大学院生よりは卒業に時間がかかりそうです。

Q 卒業して他の大学出身の先生方と交流もされていると思いますが、九州歯科大学の学生の強みと弱みは何だと思いますか?...(山崎)

群馬大学の口腔外科には、九州歯科大出身の先生が僕を含めて3人います。他の大学の先生もたくさんいる中で強みとして感じるのは、部活を経験しているから上下関係や立ち回りが上手いことですね。大変なときでもめげない忍耐力と体力があって、簡単に逃げないし諦めない。理不尽にも耐えられるところがあるかな(笑)。弱みはあまり感じたことはないですね。

Q その強みを伸ばしていくために、学生時代にはどんなことをすればいいと思いますか?...(大塚)

上下関係がしっかりしている中でも、自分たちの学年の色を出そうしたり、やりたいことをやろうっていう気概が九州歯科大はあるから、学生時代から意識して行動すると、社会に出たときに自分の個性を出せる先生になれると思います。

Q 卒業生として、九州歯科大学の魅力は何だと思いますか?...(山崎)

九州歯科大学は、歯科のさまざまな専門分野があり、病院における診療においては他科との連携が取りやすく、症例数が多いことです。例えば、外科的矯正治療の患者さんの場合、同じ病院内に口腔外科と矯正歯科があるので、すぐに患者さんの治療方針の相談ができるのが良いと思います。

Q 今後の目標や将来の展望があれば聞かせてください。...(大塚)

基本的には口腔外科でずっとやっていくつもりなので、大学院の学位、口腔外科の専門医を取って、最終的には指導医や、口腔がん治療の認定医を目指しています。



特集2 FEATURE ARTICLE

口腔保健学科・卒業生 × 現役学生リモートインタビュー

卒業生、藤井先輩に聴く。



第7回 学長賞
第3期生
九州歯科大学
歯学部口腔保健学科卒業（2016年3月）
藤井 響子さん
大学卒業後、歯科衛生士として伊東歯科口腔病院（熊本市）に就職し、3年間勤務。2019年から北九州市内のいちろう・すみれ歯科医院に勤務。

interviewer
口腔保健学科 3年
安永 菜々さん

interviewer
口腔保健学科 1年
工藤 友莉さん

Q 九州歯科大学を選んだ理由は何かですか？…(安永)

私は北九州出身なので、自宅から通えたことが理由のひとつです。大学は4年間あるから、専門学校よりも時間をかけて深く学べると思って九州歯科大学を選びました。

Q 歯科衛生士になろうと思ったきっかけは何ですか？…(工藤)

もともと私は矯正治療をしていたんですが、治療にあたって矯正用のインプラントを埋入しないといけなくて、かなり怖かったですよね。そのときにいろいろ声を掛けて支えてくれたのが歯科衛生士さんでした。この経験をきっかけに、歯科衛生士の道に進もうと思いました。

Q 学生時代の一日のスケジュールはどんな感じでしたか？…(安永)

家から1時間ほどかけてバスで通学をしていました。7時前くらいに家を出て、8時くらいに大学に着いて、あとは大学でずっと過ごしました。夕方家に帰るの時間が6時くらい。その後はゆっくりして、いろいろ課題をやるのは就寝前でした。ついでにチャットがあって、2時3時まで課題をやっているようなスケジュールでした。

Q ご自身を客観的に見て、どんな学生だったと思いますか？…(工藤)

そんな目立つ感じでもなくて、普通の生徒だったと思ってます。一応、課題とかは真面目に取り組んでいたつもりです。

Q 学生時代、何かアルバイトはされていたんですか？…(安永)

数カ月だけパン屋さんでバイトをしていました。高校の友達に誘われてやっていました。バイトの始まりが6時からで、

家に着くのがギリギリだったので、時間の関係で長くは続かなかったです。

Q 普段の勉強は、いつもどんなふうにしていましたか？…(工藤)

課題には真面目に取り組むようにしていました。試験前はとにかく書いて覚えることが多かった。例えば法律とかを覚えるときに、頭に浮かんだものを年号と一緒に書いていって、そのあたりにこんな法律も



あったかなと思えば、またそれも書き加えていくんです。連想ゲームみたいに関連するものを全部書き出して、それをつなげて図式化もしていました。勉強していくうちに、混同して間違いそうなことが思い浮かんだら、それも関連付けて調べて、ひとまとめにして覚えていくようにしていました。シャープペンで乱雑に書くから見直せる状態じゃなくて、書いた紙はすぐに捨てていましたね。きれいにまとめるときは、キーワードを赤で書いて赤シートを使って隠せるようにしていました。友達と一緒に、問題を出し合って勉強することもありました。

Q 本格的に国家試験の勉強を始めたのはいつですか？…(安永)

たぶん国試の1年前くらいだったと思います。国試の冊子をもらえるので、それに全部書き込んで、付箋を挟み込んだりして、1冊で全部見直せるようにしていました。

Q 学生時代にもっとこれをしてあげよかったです、ということはあるんですか？…(安永)

実践系はちゃんとやっておくべきだったと思います。印象をとったり、石膏を練ったり、あとスケーリングもですね。実際に働くようになると一人でやらないといけなくなるので、学生のうちにできるだけスキルを上げていたほうが後から楽だと思います。

Q 1年生のときに、やっておいたほうが良いことってありますか？…(工藤)

1年生のうちは、まずは大学に慣れて楽しんでもらうのが一番だと思います。勉強では、私は解剖系が結構苦労したから、たまに見直しておいたほうが良いかもしれません。

Q もし学生に戻れるとしたら、どんなことがしたいですか？…(安永)

大学時代の友達と過ごす時間がほしいですね。就職すると場所も時間もバラバラになって、みんなでなかなか会えなくなるので。あとは、卒業研究が楽しかったから、また続きをやりたいと今でも思っています。入学前から再生医療に興味を持って

いて、卒業研究では細胞培養をやらせてもらって、タンパク質の量を測ったりもしました。普段できない研究ができて、貴重な経験だったと思います。



Q 卒業後の質問になりますが、就職先を選んだ理由は何かですか？…(安永)

就職先はなかなかすぐには選べなくて、決まったのはギリギリ、年明けぐらいでした。卒業して最初に就職したのが、熊本の伊東歯科口腔病院というところで、歯科専門の大きな病院です。その頃は、自分がやりたいことがあまりわかっていなかったんですよ。その病院は一般歯科、矯正、外科、訪問、夜勤もあって、とにかくいろいろ経験できることから就職を決めました。同期が8人いて、お互いに支え合いながら練習も一緒にしていました。幅広い経験ができて楽しかったです。

Q 学生時代に想像していた社会生活と、今の生活では違いがありますか？…(工藤)

想像していた頃は、お金をもらう責任があるから不安があったんですけど、就職して毎日過ごしていると何とかなっていて、意外と大丈夫だと感じています。忙しいイメージもあったんですが、休みの日には友達と遊びに行ったり、趣味の時間もちゃんと取れています。

Q 仕事が終わった後やお休みの日、プライベートではどんなことをしていますか？…(安永)

最近友達と一緒にギターを買ったんですよ。もともと私も興味を持っていて、友達

が買うときに声をかけてもらいました。今はギターの練習をするのが楽しいです。ちゃんと弾けるようになって、一緒に演奏ができたらいね、っていう話をしています。読書も好きなので、ゆっくり本を読んだりして過ごすこともあります。

Q 仕事の面で、やっていきたいと思っていることはありますか？…(安永)

まだ、知識も経験も未熟なので、勉強を続けていきたいと思っています。今の歯科医院で働き始めて1年半くらいになるんですが、院長先生や皆さんにとっても優しくしてもらっていて、これからも長く続けていきたいです。以前の大きい病院からこちらの開業医さんのところに来て、患者さんの人数があまり多くないので、皆さんの顔を覚えれるようになったんですよ。もっと一人ひとりの患者さんとしっかり向き合って、対応していけるようにしたいと思っています。

Q 患者さんと接するときに、一番大事にしていることは何かですか？…(安永)

患者さんの話をしっかりと聴くことと、できるだけ痛みや苦痛がないようにすることはいつも大事にしています。

Q 最後に、学生の皆さんにメッセージやアドバイスををお願いします。…(安永)

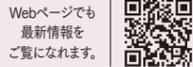
将来のことや勉強のことなど、いろいろ不安もあると思うんですけど、実際に毎日過ごしていると結構何とかなっているのが大丈夫だと思います。大学ではそのときにしかできない経験があるから、たくさん楽しんで、たくさん思い出をつくってもらえたらと思います。頑張ってください。今を楽しんでください。



Topics

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴う本学の対応

世界中を混乱に陥らせている新型コロナウイルスですが、本学への影響も例外ではありませんが、さまざまな対策を講じております。コロナ禍において本学の教育をどのように行い、またどのような支援を行っているかを説明いたします。



Webページでも最新情報をご覧いただけます。

九州歯科大学における新型コロナウイルス対応の状況

- Feb. 2月** ・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応について大学webサイトに掲載。
- Mar. 3月** ・卒業式の中止を決定。学位記の授与は歯学科で2教室に分け、口腔保健学科でも別教室において実施。
・COVID-19対策会議を開始。
・在学生に向けて渡航歴や健康調査を実施。
- Apr. 4月** ・学生の課外活動実施について禁止を要請。
・4月からの新学期の日程変更の決定。
・入学式中止に伴う新入生オリエンテーションの実施。
・緊急事態宣言を受けて全学における対面授業を中止。
・前期の講義における遠隔授業の開始。(13日から)
- May. 5月** ・緊急事態宣言の解除を受けて密閉、密集、密接にならないよう配席し、対面実習を開始。
・国の学生支援緊急給付金への対応を開始。
- Jun. 6月** ・学部学生及び大学院生の附属病院における実習の再開。(15日以降)
・九州歯科大学の行動指針(BCP)の策定。
- Aug. 8月** ・前期定期試験の実施。
- Sep. 9月** ・後期の講義について遠隔授業を中心に実施。
・後期の講義に合わせて学生に遠隔授業に必要なパソコン等の貸与を開始。

対応-1 感染防止に配慮した教育の実施

本学では、緊急事態宣言の時期から実習や演習等以外の科目は、MoodleというeラーニングシステムとMicrosoft Teamsというオンライン会議用ツールを使った遠隔授業として実施し、学生への教育を継続して行っております。

また6月以降は、実習や演習、語学等の科目は、広い講義室への変更、一学年を2班に分けるなど密とならないよう配席を工夫するほか、アルコール消毒や換気など感染対策に配慮した方法により対面授業を実施しています。



eラーニングシステム [Moodle]

対応-2 経済面における学生支援

本学における学生の経済的支援については、大学法人の設立団体である福岡県とともに授業料の減免等の拡大などの充実を図っています。

また、国における学生支援緊急給付金給付事業「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』について、全学生に対しメールでの周知等を図り、早急な手続きを支援し大学院生を含め115名に給付されております。

対応-3 感染防止対策に配慮した環境整備

本学においては、講義等が遠隔授業となったことから受講に必要な情報機器や通信環境が十分ではない学生を支援するため、福岡県の補助金により準備したノートパソコン及びモバイルWi-Fiルーターの無償貸与を行っています。

また、講義室や実習室などにはアルコール消毒液を配置、飛沫防止パネルや換気補助用サーキュレータの設置、実習におけるフェイスシールドやプラスチックエプロンの準備など感染防止対策に配慮した教育を実施しています。



モバイルWi-Fiルーター

大学からのお知らせ

令和2年の国家試験において良好な結果を収めることができました。

文部科学省医学教育課が令和2年9月に公表した第113回歯科医師国家試験関連データについてご紹介いたします。歯学科の歯科医師国家試験結果は、新卒合格率が89.9%(全国平均79.4%)と昨年度と比較して7.3ポイント向上しました。また、修業年限(6年)での国家試験合格率(留年等をせずにストレートで国家試験を受け合格した学生の率)は86.3%(全国平均53.1%)で国公立大学を含めた29歯学部中、最も良い結果となりました。これらの結果は、学生諸君が自発的に学びを続けることで留年や退学が少なく、本学の教員や職員の学生へ寄り添った熱心な指導に向き合い、素直に受け入れることができたからだと考えております。

また、口腔保健学科の第29回歯科衛生士国家試験では、新卒合格率100%という結果でした。歯科衛生士国家試験においても口腔保健学科の教員や職員が学生に適切に教育や指導を行い、学生が応えた結果です。

九州歯科大学においては、今後も高度な専門性を持った歯科医療人の育成に努めてまいります。

第113回歯科医師国家試験結果

	H26年4月 入学者数(人)	左の入学者の歯科医師 国家試験合格者数(人)	修業年限(6年) での合格率
九州歯科大学	95	82	86.3%
国立大学11歯学部	549	374	68.1%
私立大学17歯学部	1,761	820	46.6%

2020年度の本学入学試験状況

2020年度の大学入試における志願状況の特徴として、18歳人口の減少等により全国の大学全体の志願者数が減少したことがあげられます。歯学関係においても国公立大学の歯学科の志願者数は2020年度は3,083人と、2019年度の3,329人と比較して246人の減少となりました。

本学の入試においても同様な傾向で、2020年度入試の歯学科の志願者数合計は336人と2019年度の445人を大きく下回りました。口腔保健学科については志願者数合計は65名と前年度から4名の微増となりました。

2021年度入試では従来の大学入試センター試験が大学入学共通テストに改められるなど大学入試改革が実施されます。本学においてもAO入試、一般入試の名称が総合型選抜、一般選抜に変わり、新たに福岡県内高校生を対象とした学校推薦型選抜を実施します。

本学としては、大学本館や附属病院における充実した実習や高い国家試験合格率など本学の魅力や強みをアピールするなど受験生に対する入試広報活動を一層強化し、志願者の確保に努めてまいります。

2019年度入試結果

学部/学科	募集人員	出願者数			受検者数		当初合格者数		志願倍率		実質倍率	
		A	B	C	A	B	A/定員	B/C	A/定員	B/C		
歯学部	歯学科	一般選抜(前期)	78	372	333	78	4.77	4.27				
		AO(全国)	5	32	32	5	6.40	6.40				
		AO(県内)	12	34	34	12	2.83	2.83				
		私費外国人留学生	若干名	7	5	0	—	—				
	合計	95	445	404	95	4.68	4.25					
口腔保健学科	一般選抜(前期)	22	54	49	22	2.45	2.23					
	AO	3	7	7	3	2.33	2.33					
	合計	25	61	56	25	2.44	2.24					

2020年度入試結果

学部/学科	募集人員	出願者数			受検者数		当初合格者数		志願倍率		実質倍率	
		A	B	C	A	B	A/定員	B/C	A/定員	B/C		
歯学部	歯学科	一般選抜(前期)	78	228	198	83	2.92	2.39				
		AO(全国)	5	43	43	3	8.60	14.33				
		AO(県内)	12	55	55	9	4.58	6.11				
		私費外国人留学生	若干名	10	6	0	—	—				
	合計	95	336	302	95	3.54	3.18					
口腔保健学科	一般選抜(前期)	22	54	48	22	2.45	2.18					
	AO	3	11	11	3	3.67	3.67					
	合計	25	65	59	25	2.60	2.36					